

健やか親子表彰 ―企業部門 優秀賞―

三起商行株式会社（ミキハウス）

ミキハウス プレママ・プレパパセミナー

取組の目的・背景

既に10年以上取り組んでいますが、核家族が増え、周りに相談できる人がいないケースも多く、1人で抱える方が増えていくように感じています。初めてご出産を迎えるパパ・ママたちに、「体験」を通して、安心して子育てをスタートしていただきたい、これが私たちの目指すところです。1人1体の赤ちゃん人形を使い、抱っこや肌着・おむつの着せ方、沐浴体験をすることで産後のイメージが沸き、育児に関する不安を少しでも軽くしたいと取り組んでいます。取り組み当初から大切にしているのは、楽しみな気持ちや不安な気持ちに寄り添うこと。最初は不安そうだったプレママ・プレパパがお帰りのときには笑顔で帰ってもらえること。部署を超えたチームの力でミキハウスらしいセミナーを作りあげてきました。

具体的な取組内容

百貨店のイベントスペースなどをお借りして小規模で「コト」の提案を始めたのは2008年。正式に「ミキハウス プレママ・プレパパセミナー」というタイトルにし、告知ページや受付フォームなどの準備が整ったのが2014年になります。開催場所は、北は北海道、南は鹿児島まで、主要都市が中心になりますが、52週、ほぼ毎週、全国各地で開催。

【実施方法】

① 開催種類

自社単独開催、一般企業とのタイアップ開催、自治体さまとの開催、産婦人科さまとの開催。

② 告知について

自社のWEB専用ページに開催ページに情報をアップ。若干であります、SNSの広告にも出稿、開催エリアによっては地方のテレビ局さまと組むこともあるので、テレビスポットでの告知。チラシを作成し、開催エリア付近の自社店舗や近隣の産婦人科さま、自治体さまでの窓口で案内をしていただく。



▲プレママ・プレパパセミナー

③ 1回の開催は基本的に25組50名を1セット

応募が多い場合は平日、土日に関わらず、午前・午後・夕方（ナイト）の計3回開催することもあります。

④ 1セミナーの開催時間

120分～140分で行い、間に休憩を15分入れます。ほぼご夫婦での参加のため、ご夫婦1組に対し、1テーブル、椅子3つが基本セットです。ご参加いただいた方には1人1体、3000g・50cmの新生児と同じ大きさ、重たさの赤ちゃん人形を用意し、肌着（短肌着・コンビ肌着）とおむつ、沐浴の体験セットを用意します。

⑤ 開催内容

司会・進行は男性。女性講師がメインで肌着やおむつ、沐浴のしかたを説明。男性メンバーが前方でサポート。参加者の周りにはサポートスタッフが3～4名、この実施方法が基本。講義ばかりでは飽きてしまうため、赤ちゃん人形を使って、肌着を着せたり、おむつをつけたり、また沐浴の手順の練習をしたり、体験をメインにしています。参加者が困ったときや、分からないときなどは、周りにいるサポートスタッフが手厚くフォローします。このサポートが参加者の安心や満足につながっています。そして、最後にまとめとして先輩ママ・パパからお話をし、終了。

⑥ 今後について

子育ては10人10色、違って当たり前。そういったことを伝えてくれるところもなく、会社やご近所、ご家族の中でのコミュニケーションも変わってきています。だからこそ、ちゃんと対面で「伝える場所」「聞ける場所」、そのような場所を作り続けたい。そして、今は1社ですべてやる時代は終わりました。組めるところは組む。産・官・学、業種の垣根を越えての取り組み、あわせて自治体さまや産婦人科さまとの取り組みも同様に増やしていきたい。社会全体で「子どもを産み育てやすい社会、環境に」一歩一歩前に進むことを目指しています。

健やか親子表彰 優秀賞

受賞者の声 担当者：加藤浩二・西久保江里

取組を始めた経緯は何ですか？

自身の出産準備で感じた情報不足や育児に関する不安の経験をきっかけに、ミキハウスならではのプレママ・プレパパセミナーを企画しました。仲間と試行錯誤を重ねながら、出産や育児への不安に寄り添い、笑顔で子育てを始められるよう支える体験型の取組として、10年以上継続して実施しています。

具体的にどのように取組の普及を工夫しましたか？

講義だけでなく、1人1体の新生児と同じ大きさ、重さの赤ちゃん人形を使った実践体験を中心に構成し、参加者が安心して学べる内容に工夫しています。男性司会・女性講師・スタッフが連携し、温かい雰囲気大切に運営。口コミやSNSで共感が広がり、自然に取組が全国へ普及しました。

取り組む中で苦労したこと、大変だったことは？

当初は部署としての体制もなく手弁当でのスタート。さらに「プレママ・プレパパセミナー」という名称や「コト体験」の認知が低く、周知や集客に大変苦労しました。仲間と知恵を出し合い、告知方法を工夫しながら信頼を積み重ね、全国で継続開催できる基盤を築き上げました。

取り組む中で苦労したこと、大変だったことに対して、どのように乗り越えたか

参加者の反応やアンケートを見ながら試行錯誤を重ね、柔軟に内容の変更や運営方法を改善。その結果、参加者の満足度も上がり、口コミが徐々に広がりました。また初心を忘れず、軸をぶらさず、コツコツ継続し続けたことが、他企業さまや自治体さまからも信頼を得ることができました。

今後の展望・課題は？

セミナーの内容を時代のニーズに合わせてブラッシュアップしつつ、さらに充実させ、企業や自治体、産婦人科との連携を拡大し、地域に根ざした子育て支援を強化します。また、防災・食育など産後の課題にも対応し、ママ・パパが安心して子育てを始められる社会づくりに貢献していきます。

評価委員からのコメント

SNSなどに情報があふれている時代だからこそ、対面で「体験」を提供することにこだわり、初めて出産を迎えるパパママの不安な気持ちに寄り添った素晴らしい取組です。今後も、様々な関係者と連携しながら取組を広げることで、子どものいる生活の楽しさが一人でも多くの方々に伝わっていくことを期待しています。

鹿児島県 保健福祉部 子ども政策局 子育て支援課 大倉野 奈緒子

受賞、おめでとうございます。1社員の、出産や子育ての不安を少しでも解消できたらという提案から始まった本取組は体験を重視したものであり、パパママが笑顔になれる内容であると感じました。「伝える場所・聞ける場所」を作り続けていくために、横のつながりを作りながらアップグレードしていく今後の取組も楽しみです。

全国養護教諭連絡協議会 常務理事（千葉県山武郡九十九里町立片貝小学校 養護教諭） 木原 薫

パパとなるご自身の経験からの取り組みを社会貢献として10年以上続けてこられたことが高く評価されました。リアルでの「体験」を重視した取り組みのみならず、動画配信を行うなど時代に合わせて取り組まれており、素晴らしいです。今後も新たな切り口の内容や横に輪を広げての取り組みに期待しています。

北上市健康こども部こども家庭センター所長 菅原 奈保子

乳児にとって、直接目を合わせ語りかけるコミュニケーションが必要です。様々な技術や工夫でサービスがデジタル化する時代だからこそ、保護者が乳児を連れて一緒に参加できる場所、地域の身近な場所で多様な他者との関わりができる活動が重要であり、社会が子どもに約束する必要があります。長年の活動に敬意を表します。

NPO法人せたがや子育てネット 代表理事 松田 妙子